

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 3471504617 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人エルダーサポート協会 | | |
| 事業所名 | グループホーム 愛の郷引野 | | |
| 所在地 | 広島県福山市引野町北五丁目22番5号 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年1月26日 | 評価結果市町村受理日 | 平成30年3月16日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 あしすと | | |
| 所在地 | 広島県福山市平成台31-34 | | |
| 訪問調査日 | 平成30年2月26日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所独自の理念「一人ひとりを見つめた対応」「今までの生活を大切に」「食事の雰囲気作り」「楽しみの時間探し」「笑顔で優しい対応」を職員全員で取り組んでいます。まずは利用者様、ご家族様の要望をお聞きし、希望に添える支援ができるよう職員みんなで考えます。利用者様を取り巻く全ての絆が保たれ、利用者様が生き活きた生活が送れるよう安全・安心に過ごして頂ける施設づくり、地域密着型施設として地域に貢献できる施設を目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近くには商業施設があり、利用者の買い物や散歩に恵まれた条件にある。優れている点として、利用者一人ひとりの生活スタイルを尊重して入浴の曜日を設定したり、表情等から思いや意向を汲み取って、利用者が自己決定できる支援をしていること等がある。工夫点として挙げられるのは、自己評価のアンケートを実施し、職員も取り組みを振り返ることで経営に参画していること。また、年に2回、リスクマネジメントの研修を実施し、職員のストレスの解消に努めるとともに身体拘束の予防にも活かしていること、等がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通じて、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域密着型サービスとして「今までの生活を大切に」という理念と共に地域の一員として出来る限りの地域活動に取り組んでいる。事業所理念である敬意と尊敬、慈しみを日々意識するよう取り組んでいる。 | 法人理念と事業所の理念「笑顔の心得」をスタッフルームに掲示し、毎朝の引継ぎで話し合うことで共有している。また、月に一度のミーティングで取組み状況を振り返り、実践にもつなげている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域清掃・敬老会・町内会総会などへの参加。中学生によるチャレンジウィークでの職場体験等、地域との繋がりをもち取り組んでいる。 | 開設時から町内会に加わり、総会や年2回行われる清掃に参加している。また、中学生の職場体験、歌や大正琴、生け花等のボランティアも受け入れている。地域に必要な認知症の情報や災害時の相互の協力について協議している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議や地域ネットワーク等通じて、認知症の方の現状、例えば進行防止や徘徊行動の症状のある方への取り組みを伝えていく。認知症の方の理解を深めて頂くよう取り組んでいる。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議に合わせてボランティアの方に来て頂き利用者の方への関わり、施設の取り組みを見て貰い、意見交換をする事でサービス向上に活かしている。 | 介護保険課、包括支援センター、町内会長、民生委員等が参加し、2ヶ月に一度開催している。内容は、運営状況の報告、町内からの案内等である。地域に向けた感染症の研修も実施している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 2か月に1度の運営推進会議には、必ず参加して頂き事業所での課題や、問題点を相談しています。今後も、利用者様の事や施設運営等の事で良きアドバイスを頂く様関係を築いて行く。 | 内容により、本部と管理者が分担し、東部支所を中心とした連携を日常的に行っている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束ゼロを実践していますが、離設をする利用者様に対してはその都度職員間での徹底した見守り等を行うよう努めている。 | 本部が実施する年2回のリスクマネジメント研修により、職員のストレスをためないことに努めている。また、利用者に寄り添う声かけをしたり、散歩したりするなどして未然防止にも努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 内部研修や外部研修への参加を行い、そこでの勉強会で学んだ事を実践行っている。また、ミーティング等で職員間での意識統一も行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修会への参加や勉強会等を通じて、事業所内で話し合い活用出来る支援を行っている。利用者様の代弁が出来る様制度を理解するよう努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には、重要事項説明書に基づき説明を行っている。ご家族の意見や疑問に対しては、話しを聞き納得されるよう説明を行っている。普段の面会時などでも、要望等お聞かせ頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱を設置し、何時でもご家族様の要望等が伝わるよう努めている。法人でも、ご家族様に対し事業所への要望など無記名アンケートを行い運営反映出来るよう取り組んでいる。 | 利用者はフロアで寛げる時間に、家族は面会時に話を聴くようにしている。出された意見は、おやつの内容等などに活かしている。 | 利用者への支援をさらに充実させるために、家族へ声をかけたりボランティアなど、外部団体への働きかけの工夫が期待される。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に1度のミーティングで職員に運営報告を行っている。職員からの意見も運営に反映出来るよう取り組んでいる。 | 月に一度のミーティングや日々の会話の中で、把握するようにしている。出された意見は、物品の購入や修繕等に活かしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回、自己評価を行い個々の目標を決めて貰い各自がやりがいであったり、向上心を持って業務にあたるよう取り組んでいる。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人による入社時研修、2か月に1度のスキルアップ研修・資格別ミーティング・内部研修で介護技術の向上に繋がるよう取り組んでいます。また、ストレスマネジメントに関して勉強会等で学び取り入れて行ける様努めて行きたい。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 小地域ネットワークへの参加時に同業者との交流を行い、意見交換等の中からサービスの質の向上に取り組んでいく。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 情報収集を行う中で、本人様の生活暦を知り不安や困っている事などを聞き、要望に答えられるよう信頼関係づくりにつとめる。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 施設見学に来られた時に、悩みや不安に耳を傾け要望に添えるような関係づくりにつとめる。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 施設見学時に、本人と家族様それぞれの悩みや不安を聞きどのようなサービスを必要としているか話しを聞く。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家庭での暮らしの場と同じように、出来る方には掃除や洗濯、食事作りを支援した、レクリエーション等を通じて関係を築いていくよう努める。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族様との関係が途絶えないよう、家族様の負担にならないよう共に支えあっていくよう努める。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 事業所へ面会に来られた際には、お茶等を飲みながらゆっくり話しをして時間を過ごして頂くよう努めていく。 | かつての教え子や家族等の面会時には、寛いで話が出来るよう声をかけたり、お茶を出したりしている。また、以前のかかりつけ医から誕生日に花束をもらったり、家族の協力で外食を楽しんでいる利用者もいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様同士気の合わない人もいます。そのような場合は、席を一緒ににならないよう気を配り対応をしたり、間に職員が入ったりして支えあっています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院が長期に渡り、契約解除された方や看取りにて退去された家族様からお電話やお手紙を頂いたりと関係が保たれている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | その都度、表情やしぐさの観察を行ない心の声に耳を傾けるよう、個々の生活を大切に生活を大切に家事や趣味など暮らし方の希望を把握して支援できるよう努力している。 | 利用者一人ひとりの表情や言葉を細やかに観察し、生活全般についての意思決定ができる態勢を整えている。思いや意向は、食事の時間や量などに反映している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 1人1人の生活歴を、家族様からの情報収集を行い職員間で共有して今後のケアに活かすよう努める。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 生活表を活用しその方に合った個別支援を織り込みながら出来る事・出来ない事を観察・把握し楽しく過ごせるような支援に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族様に意向を聞きながら日々の生活の中での課題を話し合っています。申し送り、ミーティングの中で課題をあげて現状に即した介護計画作成に努めています。 | 担当者の意見を基に、ケアマネが作成した計画を職員間で共有した後に、家族と連携している。モニタリングに基づき、個人別に6ヶ月ごとの見直しとしているが、柔軟に対応している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日の中での体調管理、出来事等些細な事でも記録に残すようにして職員間で情報を共有し介護計画に活かされるよう努めています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 緊急時での病院受診へは出来る限り対応している。食事に対しても個別支援を行い本人・家族様の要望に応えられるよう柔軟に対応し行うよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域で活動されるボランティアの方に来て頂き、音楽や歌を披露して貰ったり、定期的に行われる生け花教室へ参加したりして交流を図り楽しんで貰うよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 家族様了承のもと1ヶ月に2回主治医に往診に来て頂いています。また、急変時の対応には、家族様と連携を図りながら、適切な医療が受けられるよう支援に努めている。 | かかりつけ医を継続している利用者については、家族受診を原則としている。各々の主治医が月に2回、往診している。緊急時には主治医と連携して適切な医療が受けられるようにしている。歯科は、往診による口腔ケアもしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の体調の変化を看護師、職員間で連携を行い報告し管理をしている。また、必要に応じては訪問看護ステーションとも連携し適切な医療が受けられるよう支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院時には、地域連携の方に連絡を行いまた医師・看護師ともカンファレンスで話し合いを行い連携出来るよう努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時には看取り指針の説明を行ない。また終末期にはご家族・主治医・看護師などと話し合いを重ね本人様が安心して苦痛の無いよう医療関係者と連携して支援している。 | 利用開始時に、事業所として出来ること・出来ないことを説明している。重度化した場合、医師・看護師・家族と連携し、チームとして支援できる体制を整えている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | マニュアルに沿いミーティング等で、急変・事故発生時の対応の周知徹底を図る事で実践力を身に付けるよう取り組んでいる。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の消防訓練を消防署立会いのもと、隣接の小規模多機能と共に行っている。 | 年に2回、昼間と夜間を想定した避難訓練を実施している。そのうち1回は、消防署の指導を受けている。災害時には、事業所が住民を受け入れること等も運営推進会議で話し合っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの個性があるので、自尊心を傷付けるような声掛けを行わないようプライバシーに配慮している。信頼関係を築けていくよう努める。 | 利用者の呼称・入室時のノックを始めとし、一人ひとりの尊重・プライバシーの確保に努めている。また、傾聴することで把握した意向を一人ひとりの生活スタイルに反映している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 常に声掛けには、気をつけています。会話や表情から観察し心の声に気づくよう心掛け優しい態度で傾聴・共感する事で自己決定が出来るよう支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員の業務を優先する場合がありますが、注意して利用者様個人のペースに合わせて支援するよう努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人の好みを知り、好みの洋服を着て頂いたりお化粧をする事で、気持ちが良くなるよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 施設内行事等で、お弁当作りやバイキングを行い食事面で楽しんで頂く。出来る方には、調理の準備を一緒に行ったりし意欲が生まれるよう支援している。 | 職員が交代で3食、手作りしている。量や時間等は利用者の意思を尊重し、無理強いはしていない。バイキングやおにぎりを一緒に作るなどの変化を持たせたり、夏季には畑で作った野菜も提供している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養バランス、食事量等個人差があるため、その力に応じて提供している。また、一人ひとりの生活習慣に応じて食事時間や、好みを知り提供するよう努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後は声掛けを行い、自分で出来る方には歯ブラシを使用して口腔内の清潔を保つようにしています。また、介助が必要な方にはハミングッド等を使用し清潔の保持に努めています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---------------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 利用者様個人の排泄パターンを知り、排泄の声掛けを行いトイレでの排泄が出来るよう支援に努める。尿意、便意がある方は介助を行い少しでも排泄の自立に向けた支援をしていく。 | 排泄記録に基づく声かけと誘導により、昼間はほとんどの利用者がトイレで排泄している。夜間は一人ひとりの状態に合わせて対応している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事のメニューに野菜を多く取り入れたり、牛乳や青汁を提供して便秘予防に対応している。また、軽運動を行ったり腹部のマッサージを行ったりして自然に排泄が出来るよう努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴が好きな方には、曜日にとらわれず入浴が出来るよう取り組んでいる。また、入浴が苦手な方の対応として声掛け等工夫をするように努めている。手浴、足浴も行っている。 | 利用者の意向を尊重して曜日の設定はしていない。望めば毎日の入浴も可能である。特浴の機械を使用し、全ての利用者を浴槽に入れたり、手浴・足浴を実施して眠りを促進するなど細やかな配慮もしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の生活習慣を把握し、居室で休息したい方にはそのようにして頂くよう本人の意志を尊重するよう心がけている。利用者様のその時の状態に応じて安心して過ごしてもらうように努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | まずは個々の病状を把握し、副作用のある方はその症状を主治医、看護師に確認を行い連携を取るよう努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりのこれまでの生活歴を把握し歌の好きな方、散歩の好きな方等、個別に支援をおこなうよう心がけている。また、嗜好品の提供が出来るよう主治医や家族の方と相談して楽しみが出来るよう支援していく。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 施設行事等で季節に合わせて花を見に出かけたりしています。また、敷地内での散歩や外気浴を行い気分転換するよう心がけている。 | 利用者の介護度が上がる等、厳しい条件に置かれているが、野菜の水やりや散歩、花見に外出するなど、出来ることを工夫しながら支援している。 | 家族やボランティアの協力を得るなど、外部と連携した外出の検討も期待される。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人が生活するうえで必要な物は家族に相談し購入するようにしている。また、その方にあった金銭管理を心がけている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 利用者様から電話や手紙を書きたいとの要望には添うようにしている。意思伝達が困難な利用者様は職員が2か月に1度お便りで近況を報告し家族との繋がりを切らさないよう努めている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節や月ごとに応じてホール内利用者様と一緒に制作した提示物を貼ったり生け花教室での作品を飾るなどして、工夫をしている。また、室内温度もこまめにチェックするよう心がけると共に天気の良い日にはカーテンを開けて日の光を取り入れるようにしている。 | 建物の内部は木製の腰板や床を用い、落ち着きと温かさを醸している。フロアは明るく、温度や湿度・音等が適切に管理され、空気の淀みもない。天井には利用者の作成した雪洞を吊るすなど、生活感あふれる空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | その時々で、気の合う利用者様同士は席を隣りにしたり思い思い居心地の良い空間作りになるよう職員間でも話し合っている。一人になれる空間も必要なため本人にあうよう対応している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 写真や家族様との思い出のある物を飾られている。自宅で使用していた物をそのまま持って来て頂いたりして、それによって落ち着いた親しんだ環境を作れるよう努めている。 | 木製の床や腰板、部屋ごとにカーテンの模様を変えるなど、一人ひとりの家らしさを出している。使い慣れた家具やテレビ、家族の写真などが置かれ、その人らしい部屋となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室・トイレが分かるよう表札を設置したり、居室には利用者様の自立度に合わせて家具・車椅子・ポータブルトイレなど設置し安全に過ごして頂けるよう対応している。 | | |